

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成21年8月21日)

項 目	ページ
1 日照不足・低温等に係る被害防止対策について 【農政課】	1
2 DBSクルーズフェリーを活用した梨のテスト輸出について 【農政課】	2
3 穀物・飼料・資材・燃油高騰に対する農林業緊急プロジェクトの 実施状況について 【農政課、畜産課、食のみやこ推進室、生産振興課】	3
4 耕作放棄地解消に向けた取組状況について 【経営支援課】	5
5 「鳥取暮らし農林水産就業サポート事業」及び「鳥取へI J U! アグリスタート研修事業」の実施状況について 【経営支援課、森林・林業総室、水産課】	6
6 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	7
7 鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館の愛称募集について 【生産振興課】	8
8 県営事業に係る事業費内訳の市町村への提示について 【耕地課】	9
9 「原木しいたけ新規生産講座」の開講について 【森林・林業総室】	10
10 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【森林・林業総室】	11
11 「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールについて 【食のみやこ推進室】	12

農 林 水 産 部

日照不足・低温等に係る被害防止対策について

平成21年8月21日
農 政 課

○ 「鳥取県日照不足・低温対策会議」の設置

今年は、平年より大幅に遅れて8月4日に梅雨明けしたが、7月中旬以降の日照量は平年に比べて大幅に少ない状況にあり、農作物への影響が懸念される所。

このため、現場の状況を的確にとらえて被害を最小限に抑えることを目的として、8月6日、「鳥取県日照不足・低温等対策会議」を設置。

被害情報の収集や防除指導の実施体制を整えるとともに、8月18日、第2回の対策会議を開催し、対応策等を協議した。

(構成機関)

鳥取地方气象台、鳥取大学、中国四国農政局鳥取農政事務所、JA全農とっとり、農業共済組合連合会、JA鳥取いなば、JA鳥取中央、JA鳥取西部、県たばこ耕作組合、県関係機関

1 気象の経過・今後の見通し

- ・7月中旬より日照不足の状態(平年比30%程度)。平均気温も平年より2℃程度低く推移。
- ・8月14日発表の1か月予報では、向こう1か月は天候も回復し、平年と同様に晴れの日が多いとの見通し。

2 これまでの農作物生育への影響と対応策(8月17日現在)

- ・全般に日照不足による生育の遅れ、降雨による農作業の遅れが発生。
- ・全般に病害虫の発生は平年並みに抑えられているが、一部の地域では拡大が懸念される。

作目	生育への影響	対応策
水稻	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂が平年より数日程度の遅れ ・山間部を中心に一部で穂いもち病が発生 ・フタオビコヤガの葉の食害が目立つ 	○いもち病に対する適期防除
果樹 (梨)	<ul style="list-style-type: none"> ・玉太りに影響は見られない ・天候回復しないと果実糖度の低下が心配 ・黒斑病は少ないが、黒星病の多い園が一部の地域で見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前の品質検査(糖度、食味)に基づく適期収穫 ○収穫後の追加防除を必要に応じて実施
野菜 (ネギ)	<ul style="list-style-type: none"> ・排水不良による根いたみ、欠株が発生 ・白絹病、軟腐病の発生が拡大傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ○排水対策の実施 ○薬剤防除の徹底

3 発生予察情報(病害虫防除所発表)

(1) 病害虫発生予察注意報第4号(8月6日付)

○梨 黒 星 病：7月以降も発病に好適な条件が続いたため、発生量は多い。

(2) 病害虫発生予察指導情報(8月12日付)

○イネ・いもち病：県全体の葉いもち発生ほ場率は、31.2%と平年並み(平年34.7%)。しかし、病勢が終息していないため、防除の徹底が必要。

○フタオビコヤガ：発生ほ場率は70.4%で発生の多かった平成17年、18年と同程度。

○斑点米カメムシ類：発生ほ場率は77.8%、要防除水準を超えたほ場は40%で、平年並み。

4 被害防止のための緊急防除対策(案)について。(別紙)

DBSクルーズフェリーを活用した梨のテスト輸出について

平成21年8月21日
農 政 課

1 ロシア向け梨テスト輸出の概要

- ・出荷者 JA全農とっとり
- ・規 格 赤秀3L (352~406g/1玉)
輸出用5kg段ボール及び果実に「ジャパン・プレミアム」シール添付
- ・出荷量 5kg箱(14玉入り)150ケース
【内訳】販売用 100ケース
表敬訪問、サンプル、試食用 50ケース
- ・国内価格 1箱当たり約2,500円 (約179円/1玉)
- ・輸送温度 5℃

2 スケジュール

8月 26日 (水)	収穫
27日 (木)	選果、箱詰め作業
28日 (金)	境港へ運搬 <u>税関手続、植物検疫、リーファーコンテナ積込等を完了</u>
29日 (土)	国際コンテナヤードで保管
30日 (日)	<u>旅客ターミナル岸壁でコンテナ積込み、出港</u>
9月 1日 (火)	ウラジオストク入港 (通関手続)
5日 (土)	小売店舗での試食会、意見交換等 テスト販売 (約2ヶ月間)
6日 (日)	知事による店頭販売状況視察、表敬訪問等

3 本県における梨輸出の推移

単位：t、%

輸出先	平成17		18		19		20	
	出荷量	割合	出荷量	割合	出荷量	割合	出荷量	割合
東南アジア	828	68	237	45	569	67	292	58
米 国	358	30	284	54	281	33	206	41
ヨーロッパ	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	29	2	7	1	1	0	6	1
合 計	1,215	100	528	100	851	100	504	100

資料：全農とっとり「果実の生産と販売結果」

【参考：すいかテスト輸出の販売実績について】

- 販売予定490玉・ケースのうち、335玉・ケース(6.8%)が、設定価格の約2000ルーブル(約6300円)で販売できた。
- 販売金額については、代金決済が未確定な店舗があり集計中。

穀物・飼料・資材・燃油高騰に対応する農林業緊急プロジェクトの実施状況について(H20.7～)

平成21年8月21日

農政課、畜産課、食のみやこ推進室、生産振興課

【プロジェクトのねらい】世界的な穀物需要の変化や、燃油高に起因する資材費上昇など、本県農業に大きく影響を及ぼす喫緊の課題として5項目を選定し、農林業緊急プロジェクトとして各種施策を実施している。

プロジェクト名	対応する主な事業(H20補正、H21当初)	現在の実施状況
<p>自給飼料生産拡大プロジェクト (畜産課)</p> <p><目的> 水田を有効活用して粗飼料等を生産し、飼料自給率を向上させる。</p>	<p>○自給飼料生産体制緊急支援事業</p> <p>①自給飼料増産支援事業 (単県11,021千円)(H21)</p> <p>自給飼料生産用共同利用機械を導入する取組への国補助率1/3に、1/6を嵩上げ助成(8月導入予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伯耆町: 飼料用稲収穫機 (ロールベラー、ラッピングマシン) ・県畜産農協: 飼料収穫機 (ロールベラー、ラッピングマシン) <p>* 国の強い農業づくり交付金事業の嵩上げ</p> <hr/> <p>○飼料米生産・利用実証モデル事業 (単県7,310千円)(H21)</p> <p>作付、運搬、調整・保管、記帳手当 等</p>	<p>①伯耆町(飼料用稲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溝口飼料稲生産組合(和牛農家4戸)と農事組合法人「楽祐」(稲作農家5戸)の連携 ・H20に飼料用稲の試験栽培を実施 (2.51ha、平均収量2,235kg/10a) ・H21は7.4haで飼料用稲栽培実施中(クサノホシ、ベコごのみ) <p>②鳥取市・八頭町(飼料用トウモロコシ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県畜産農協、(株)東部コントラクター、農事組合法人「因幡白兔」の連携 ・H20に水田で飼料用トウモロコシ試験栽培(5haで実施、湿害とイノシシ被害で収穫できず) ・H21は2ha栽培予定 天候の影響で前作(飼料用麦(エンバク・ライ麦)の収穫が遅れ、飼料用トウモロコシ播種が遅延(7月上旬→8月上旬予定)) ・排水対策実施、及び電気柵を実施予定 <hr/> <p>①八頭町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模農家((有)田中農場)で1ha作付け ・大規模農家で直播による低コスト生産を検証予定 ・鳥取市の採卵鶏農場(株)西日本JA畜産)でトウモロコシの代替として添加し給与実証予定 <p>②南部町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2法人(福成農事組合法人、寺内農場)と稲作農家10戸が7.4haを作付け ・大山町の採卵鶏農場((有)小川養鶏)でトウモロコシの代替として添加し、給与実証予定
<p>和牛放牧プロジェクト (畜産課)</p> <p><目的> 中山間地域の水田有効活用による放牧実施。放牧による米の有利販売の検討等。</p>	<p>○和牛再生促進事業</p> <p>①水田放牧有効活用プロジェクト (国806千円)</p> <p>電牧整備、研究会開催 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域での放牧(伯耆町日光地区)(H21) ・都市近郊地での放牧(米子市)(H21) 	<p>①伯耆町日光地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光地区農業部会で取組み ・伯耆町大坂字杭山の耕作放棄地約1haを確保し、町内和牛農家の牛3頭を借り受け放牧を開始(7/13～) <p>②米子市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和牛農家柳谷氏、米子市下新印(しもしい)で取組み ・水田放牧に適した播種牧草を選定・播種 ・約2haで5頭の放牧を実施中(6/18～) ・近隣小学校で放牧理解のための勉強会開催(6月実施)

プロジェクト名	対応する主な事業 (H20補正、H21当初)	現在の実施状況
米粉活用プロジェクト (食のみやこ推進室) <目的> 米粉食品の普及、水田有効活用のための米粉用米の生産拡大	○食のみやこ鳥取米消費拡大事業 ①米粉パン学校給食普及モデル事業 (単県4,946千円) (H21~23) ・鳥取市の学校給食で週1回米粉パン給食をモデル的に実施(現在月1回) ・米粉パンの回数増に伴う小麦粉パンとの差額支援(補助率:1/3) ②米粉消費拡大事業 (単県205千円) ・一般県民への米粉食品・料理の普及、PR	①米粉特性研究チームの発足 製パン技術、製粉特性、加工適性の研究(製粉業者、パン業者、産技センター、農試、食のみやこ推進室) ②学校給食米粉パン用米(日本晴)の栽培(鳥取市内3農家、計7.8ha) →12月より給食に米粉パンを提供予定 ③H22産米粉用米(タカナリ)の種栽培(農試) ④米粉製造機器の導入 県内2業者(計3台) ⑤製粉方法の違いによる米粉パンの試食評価 ⑥米粉料理教室等への米粉の提供 →延べ19団体
新規作物導入プロジェクト (生産振興課) <目的> 新規作物導入による不作付地の有効活用	○新規作物導入モデル事業(単県4,000千円) ・モデル集落での新規作物の試作 ・モデル集落との検討会、研修会等の開催 *モデル集落は、同一集落で3年間継続実施(H20~22)	①集落営農組織を対象に、ハトムギ・はま茶・マコモタケ・にんにく・しょうがを提案 ②3集落で生産から販売までをモデル実施 →久末営農生産組合(鳥取市):にんにく H21.10定植予定(10a) (農)らくあい農場高路(鳥取市):しょうが H21.5定植(6a) (農)岩屋谷農場(伯耆町):にんにく H21.10定植予定(5a)
農林産物生産コスト削減対策プロジェクト (農政課) (生産振興課) (森林・林業総室) <目的> 肥料等価格高騰に対応した肥料等削減の提案	○肥料価格高騰緊急プロジェクト推進事業 (単県3,953千円) ・肥料削減のPRパンフ(6.3万部)作成(H20) ・県内3農協に土壌分析器を導入(計10台)(H20) ・生産コスト削減展示ほ設置(H20~22) ○肥料・燃油高騰対応緊急対策支援事業 (単県33,859千円) ・燃油費・肥料費の増加見込額のうち、農業者負担(3割)の1/3を県助成(H20) →燃油・化成肥料の2割以上削減が対象 *国の肥料・燃油高騰対応緊急対策の嵩上げ ○原木しいたけ良品生産・コスト削減実証事業 (単県633千円)(H21) ・露地ビニール被覆栽培モデル地区設置 ・モデル地区のデータを基に手引き作成	①研修会(延べ16回、延べ参加者700名弱) ②JAを通じたパンフレットの農家全戸配布 ③土壌分析器活用による継続した施肥指導 ④生産コスト削減展示ほの設置状況 →H20実績 6普及所、28箇所(野菜11、果樹17) H21計画 7普及所、67箇所(水稻10、野菜35、果樹18、花4) ⑤肥料・燃油高騰対応緊急対策の実績(H20) →申請:183団体(東部5、中部74、西部99、広域5) 申請金額:30,352千円 ⑥露地ビニール被覆栽培モデル地区の設置 H20~H21実証試験実績 4地区(鳥取市2、倉吉市1、伯耆町1) ⑦モデル地区のデータ分析・手引き作成は(財)日本きのこセンターに委託 *生産経費の他、良品生産効果も検証

耕作放棄地解消に向けた取組状況について

平成21年8月21日

経営支援課

1 20年度の取組状況

(1) 耕作放棄地全体調査の実施 (1,094ha)

全市町村で現地調査を行い、平成23年度を目標とする市町村耕作放棄地解消計画を策定。

(2) 市町村耕作放棄地対策協議会の設立 (9市町)

(3) 耕作放棄地再生利用推進事業の推進

7市町において、耕作放棄地再生利用推進事業の再生実証試験 (23ha) を実施。

【20年度の活用状況】

	岩美町	八頭町	倉吉市	米子市	境港市	大山町	南部町
昨年実証面積	583a	160a	131a	56a	120a	1200a	17a
営農主体	認定農業者	農業生産法人	認定農業者等	認定農業者	市農業公社	認定農業者	集落営農組織
営農作物	稲、ハトムギ	ハトムギ、梨穂木取	スイカ、飼料作物	白ねぎ他	綿	飼料作物	そば
栽培面積	383a	140a	131a	56a	100a	200a	17a

2 21年度の取組状況

(1) 全体調査のフォローアップ調査を実施

未調査の耕作放棄地を追加調査し、12月までに解消計画に反映。

(2) 推進体制のさらなる整備

新たに7市町が耕作放棄地対策協議会を設立。残る3町村も設立予定。

(3) 再生事業の実施

「耕作放棄地再生利用緊急対策」(国事業)、「耕作放棄地再生推進事業」(単県事業)により、17市町村、約85haで再生予定、現在事業計画作成中。

【21年度の取組計画】

	米子市	南部町	倉吉市
営農主体	認定農業者、農業参入企業等	認定農業者、農業生産法人	農業生産法人、認定農業者等
導入作物	らっきょう、白ねぎ、さつまいも等	そば、白ねぎ、大豆等	すいか、牧草
栽培面積	294a	315a	548a
取組内容	農地再生、土壌改良、作付開始	農地再生、土壌改良、そば栽培	農地再生、土壌改良

3 今後の推進方向

- 解消に向け、市町村耕作放棄地対策協議会(市町村、農業委員会、JA、土地改良区、県農林局等で構成)の活動強化が急務。
- 県としても、再生～営農定着までの施策の実施や、市町村協議会活動の中で担い手確保、作物選定等のアドバイスをを行い、活動を支援する。

項目	内容・事業等
担い手の育成・確保	農林水産就業サポート事業、アグリスタート研修事業等による新規就農者や既存法人等の規模拡大を支援。
耕作放棄地の再生	耕作放棄地再生推進事業、水田等フル活用緊急整備支援事業等。 ※放棄地を含めた水土里情報(農地図面)を推進に活用。
農地集積	農地集積加速化事業、農地確保利用支援事業等。 ※農業委員等によるコーディネート機能を強化。
作物の選定	農林業緊急プロジェクトによる新規作物や自給飼料、県特産品目等から地域に合った作物を市町村協議会で選定。

「鳥取暮らし農林水産就業サポート事業」及び「鳥取へIJU! アグリスタート研修事業」の実施状況について

平成21年8月21日
 経営支援課
 森林・林業総室
 水産課

1 鳥取暮らし農林水産就業サポート事業

(1) 事業の活用状況

本事業を活用し、農林漁業及び食品加工産業において新たに283名(7月31日現在)の雇用が創出され、現場での実践的研修に取り組んでいる。

	事業名	助成対象者	6月補正後 雇用創出 目標(A)	採択数(B)	A-B (追加要望 見込み)	
農 業	鳥取県版「農」 の雇用 緊急支 援事業	新規就業者早期育成事業	農業法人、農業参入企 業、農業者等	158名	140名 (うち国庫84名)	18名 (23名)
		就農研修支援事業	農地保有合理化法人	28名	11名	17名 (18名)
		県産農林水産物加工業者雇 用支援事業	食品加工業者	34名	21名	13名 (6名)
		計		220名	172名	48名 (47名)
林 業	鳥取県版緑の雇用対策緊急支援事業	林業事業体	77名	71名 (うち国庫38名)	6名 (6名)	
	木材産業雇用対策緊急支援事業	製材工場等の事業体	42名	32名	10名 (10名)	
	計		119名	103名	16名 (16名)	
水 産	漁業雇用促進緊急対策事業	漁業経営体	25名	8名	17名 (17名)	
合 計			364名	283名	81名 (80名)	

(2) 事業に対する雇用主の評価

- 労力不足だったので雇用を考えていたときであり、良い事業に出会った。
- これまではハローワークから随時パート採用しており、毎年、仕事を教え込むのに苦労していた。この事業実施を機会に正式雇用することにした。
- 将来の中堅幹部に育つように研修していきたい。
- 事業実施を契機に息子が農業を引き継ぐ気持ちになり良かった。

2 (新) 鳥取へIJU! アグリスタート研修事業

(1) 事業の概要

(財)鳥取県農業開発公社が事業実施主体となり、県内での就農又は農業法人等への就職を希望するIJUターン者等を研修生として雇用するとともに、農業法人等を受入先とした実践研修を実施することにより、雇用拡大及び新規就農者確保育成の円滑化を図る。

(2) 研修生の応募状況

第1期研修生15名の募集に対し、大阪・兵庫等関西圏を中心に38名(男性31名、女性7名)の応募があった。

【出身地別】

(単位:名)

大阪	兵庫	滋賀	広島	東京	千葉	長野	愛知	県内	計
11	6	1	1	3	1	1	2	12	38

【年齢別】

(単位:名)

20代	30代	40代	50代	60代	計
8	16	8	5	1	38

(3) 取り組みの経過と今後の予定

- 7月1日～31日 第1期研修生の募集
- 8月4日 書類選考により面接選考30名を決定
- 8月10、11日 面接選考により研修生15名を最終決定
- 8月中旬 研修受入先法人等、住居の決定
- 8月18～19日 事前研修の実施(農大および受入先法人等)
- 9月1日 農業法人等を受入先とした実践研修の開始

主要農産物の生産販売状況について

平成21年8月21日
生産振興課

1. すいか

- (1) 栽培面積：325ha（前年330ha、前年対比98%）
- (2) 生育状況：強風の影響、収穫直前の割れや萎凋症状が一部で発生したが、概ね順調に生育。
- (3) 初出荷日：倉吉は6月3日（前年6月4日）
北栄は6月2日（前年6月6日）
- (4) 販売状況：消費地の天候に恵まれ、食味も良好なことから、他の果実が苦戦する中で順調な販売となった。
秀率は67%（H20：57%）と高いものの、3L以上が42%（H20：54%）とやや大玉が少ない傾向となった。

区 分	初出荷日から7月21日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
21年度	14,981	162.2	2,430,112
20年度	15,543	169.9	2,641,530
前年対比(%)	96	95	92

(全農とっとり すいか販売実績速報)

2. 白ねぎ

- (1) 栽培面積：春ねぎ66ha（前年65ha、前年対比102%）
夏ねぎ、秋冬ねぎ340ha（前年333ha、前年対比102%）
- (2) 生育状況：5、6月の少雨により生育が遅れ気味だったが、概ね順調に生育。
7月下旬の大雨・日照不足により、軟腐病等の病害の発生が見られる。
- (3) 初出荷日：春ねぎは3月1日（前年3月2日）
夏ねぎは5月31日（前年6月1日）
- (4) 販売状況

区 分	4月1日から8月15日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
21年度	2,662	357	949,762
20年度	2,646	409	1,081,777
前年対比(%)	101	87	88

(全農とっとり販売速報)

3. なし

- (1) 「ハウス二十世紀」
昨年より2日早い8月4日（火）に初販
糖度は10.3度で平年よりやや低め、玉太りは過去最大級
- (2) 「なつひめ」、「新甘泉」
○選果計画：8月25日、28日、9月2日に郡家選果場で一元選果
○生産量見込み
製品予定箱数(5kg箱)
「なつひめ」 1,471ケース（H20：472ケース）
「新甘泉」 4,443ケース（H20：1,972ケース）
○販売計画：関西と関東2ヶ所で生産者・農協・県が協力して販売促進活動を行う。
・東京：東京青果 → ブランド化協力店（紀ノ国屋）
・大阪：大果大阪青果 → ブランド化協力店（京阪ザ・ストア）
・県内需要に応え、製品数量の3割を上限に県内販売を実施

鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館の愛称募集について

平成21年8月21日
生産振興課

1 趣旨

鳥取二十世紀梨記念館は、梨をテーマとした我が国唯一の展示施設として、鳥取県の果樹振興、観光振興、文化振興を図ることを目的に平成13年4月に開館しました。

正式名称は「鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館」としておりますが、県民の皆様、観光客の皆様等から更に親しんでいただける施設となれるよう、今回、愛称を募集いたします。

2 募集期間

平成21年8月24日(月)～平成21年9月30日(水) 当日必着

3 募集する愛称

募集する愛称は、鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館を県内外にPRするため、覚えやすく好感を与えるものであり、次のとおりとします。

- (1) 鳥取二十世紀梨記念館の役割や内容を親しみやすいイメージで伝えることができること。
- (2) 発音しやすいこと
- (3) 国内の類似施設における名称・愛称として使用されているものでないこと。

4 応募資格・方法等

(1) 応募資格

- ア 応募資格は問いません。
- イ 同一人による応募は、3点以内とします。

(2) 応募方法

応募は、郵送、FAX、メールまたは館内に備え付けのクイズラリー応募箱への投函のいずれかにより応募できます。

ア 郵送による応募

(宛先) 〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町198-4 倉吉パークスクエア内
鳥取二十世紀梨記念館 愛称募集係

イ ファクシミリによる応募

(宛先) 鳥取二十世紀梨記念館 愛称募集係 ファクシミリ 0858-47-1174

ウ メールによる応募

(宛先) E-mail アドレス nashi-info@1174.sanin.jp

エ 応募箱への投函による応募

【応募箱設置箇所】 鳥取二十世紀梨記念館館内のクイズラリー応募箱

5 選考

応募のあった愛称の中から商標上支障があるものを除き、別に定める愛称選考委員会において愛称1点を決定します。

6 選定愛称ご提案者への特典

- (1) 最優秀賞 1点 鳥取県内温泉のペア宿泊券(県外の方は交通費も当館が負担します。)
 - (2) 佳作 3点 二十世紀梨1箱(10kg)
- ※同一名称が多数の場合は抽選で1名様に贈呈いたします。

県営事業に係る事業費内訳の市町村への提示について

平成21年8月21日
耕 地 課

県営事業で市町村に負担を求める場合の情報開示については、これまで年度予算の総額ベースでの通知としていたが、負担者である市町村へ適切な情報を提供し、理解を得て円滑に事業執行をするため、今年度から「農林水産部所管事業に係る市町村負担金通知要領」を定め、工事費内訳、事務費内訳を含む事業内容等を適時に通知・協議することとする。

通知内容の検討に当たっては、県土整備部とともに7月10日に市町村担当者説明会を実施し、実施方法、通知様式等について基本的に了解を得たところである。

1 通知の時期及び内容（通年ベース）

通知等の時期		通知等の内容	
前年度 10月～ 12月	財政課長要求時点	【共通】 ・事業名 ・地区名 ・事業位置 ・当該年度事業費 ・市町村負担率 ・市町村負担額 ・工事費内訳（純工事費、測量試験費、用地買収補償費、工事雑費）	
1月	知事内示時点		
当該年度 4月	交付申請時点 （負担金を負担することについて協議し、同意する旨の公文書を交わす。）		・工事雑費及び事務費の内訳 （人件費の内訳ほか）
随時	交付申請の変更時点 （同上）		
12月	決算見込時点		
2月	決算見込時点		・事業費（現年執行分と繰越分ごとに） ・負担額（同上）
翌年度 6月	実績報告時点		・4月に通知した工事雑費及び事務費の内訳の確定額

2 平成21年度予算及び平成20年度決算の通知について

農林水産部所管事業に係る市町村負担金通知要領に基づいて、8月中に市町村へ通知を行うことにより、詳細な事業情報を提供する。

（通知対象）

- ・平成20年度決算
- ・平成21年度予算

3 平成22年度事業について

上記要領の規定に基づき、市町村と協議し適切な情報提供に努める。

※ なお、市町村の予算編成等に必要な情報については、要領に定めるものに限らず、適時提供を行い、適切な情報提供に努める旨要領に規定している。

「原木しいたけ新規生産講座」の開講について

平成21年8月21日
森林・林業総室

原木しいたけ生産の新規参入者の育成・確保を行うため、原木伐採、栽培の仕方などを学ぶ、原木しいたけ新規生産講座を7月26日に開講しました。

1 講座の概要

- (1) 目的 中山間地域の主要な特用林産物である原木しいたけの生産を振興するため、原木しいたけ栽培に取り組む意欲のある者を対象に開催し、新規参入者の育成・確保を図る。
- (2) 実施主体 財団法人 日本きのこセンター（県が委託）
- (3) 開催実績 平成17年度から20年度までの修了者は75名で、そのうち約40名が生産を開始している。

2 本年度の概要

- (1) 日程 平成21年7月26日～平成22年3月14日までの9日間
- (2) 主な内容
 - ・原木しいたけ栽培の基本
 - ・19年度の修了者のほだ場視察
 - ・ほだ場環境づくり、栽培現地研修
 - ・原木の伐採、植菌、収穫・乾燥、現地実習
 - ・経営シミュレーション、経営相談
- (3) 受講者数 25名
- (4) 受講の動機（アンケート結果）
 - ・会社で農林事業部を立ち上げたところであり、原木しいたけ栽培に興味がある。
 - ・知人から原木しいたけ栽培の展望は明るいと聞き、取り組んでみたいと思った。
 - ・雑木林を所有しており活用したい。
 - ・安心・安全な原木しいたけを生産したい。

3 今後の方針

全農乾椎茸品評会（平成19年度）での全国優勝を機に掲げている、「原木乾しいたけを10t増産（H24：35t）し『しいたけ産地とっとり』を全国発信する」という目標の達成には、今後とも、新規参入者の育成確保が必要であり、新規生産講座を継続実施していく。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成21年8月21日
 森林・林業総室

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	摘要
森林・林業総室 (中部総合事務所農林局)	林道若桜・江府線開設工事 (曹源寺工区)	東伯郡 三朝町 久原	琴浦町大字赤崎1840番地1 馬野建設株式会社 代表取締役社長 馬野慎一郎	135,660,000円 (設計額・ 158,314,800円)	平成21年7月30日 ～ 平成22年3月15日	平成21年7月30日	林道開設 L=329.5m 掘削工 36,093m ³ 盛土工 303m ³ 法面整形工 6,761m ³ 残土処理工 34,707m ³	総合評価方式 制限付一般 競争入札 開札日 平成21年7月22日 (13社応札)

「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールについて

平成21年8月21日
食のみやこ推進室

1. 特産品コンクールの概要

【目的】

県内の特徴ある加工食品の中から、優れた商品を表彰・PRすることで、加工食品の技術向上や販売力の強化を図り、県内の加工食品全体のレベルアップを推進する。

【募集条件】

- ① 県産農林水産物を主原料とし、その特徴を活かした加工食品
- ② 商品化又は改良されてから概ね3年以内の商品
- ③ 現在販売中のもので安定的な市場出荷が可能なもの
- ④ 食品衛生法、計量法、JAS法等の関係法令に違反しないもの
- ⑤ 出品の際、変質又は破損しないもの

【応募状況】

- (1) 募集期間 5/13～7/6
- (2) 応募数 33商品(22社)

2. 審査

(1) 予備審査

○申請された商品のラベル等により、食品衛生法、JAS法、景品表示法等の法令適合性の審査

○予備審査をパスした商品 28商品(17社)

(予備審査をパスした商品の概要)

区分	漬物類	菓子・氷菓類	調味料	水産加工品	ジュース・お茶	レトルトカレー	酒類	乾物
商品数	28	8	6	5	3	2	2	1

(2) 本審査 (8月4日)

○審査委員会

- ・鳥取短期大学松島教授ほか8名
(学識経験者、食品関係団体、一般消費者の委員)
- ・審査の基準：①品質、②パッケージ、③市場性

3. 審査結果

区分	商品名	企業名
最優秀賞	SAWAI CAFE CURRY	株式会社澤井珈琲
優秀賞	本格焼酎「杜氏のみちくさ」	大谷酒造株式会社
	鳥取県産 白ネギと牛スジのスパイシーカレー	豊田アストリア有限公司
優良賞	大山みどりしょこら	有限会社長田茶店鳥取
	楽京美人(米酢・しそ・梨・ゆず・ピリ辛)	寿製菓株式会社
	白ハタ磯ちゃん漬け	株式会社丸綜

4. 今後の展開

- (1) 食のみやこフェスタ、県HP等で、受賞商品のPR
- (2) 受賞商品であることを証する統一マークによる販売促進支援
- (3) 特産品コンクールの継続実施による県内商品のレベル向上



5. 昨年度の受賞者の意見

- チラシ・ホームページ・ポップ等で受賞商品をPRしたことで、売り上げが増えた。
- 受賞商品であることを知って購入する人があった。

【参考】

- 県内加工品の認証制度 (商品数：平成21年7月31日現在)
- 鳥取県ふるさと認証食品 (県：平成2年～) …… 447商品
- とっとり味自慢 (商工会連合会：平成16年～) … 72商品